

文科省の松浦室長が資料 16-3(ISS 特別部会)を 5 分弱で説明した後、13 分程の質疑応答があった。(12 人の特別委員が示され、宇宙開発委員全員が出席して、6月中旬に中間報告を行う計画で、審議を進める。)(一通りの質疑応答の後、池上委員長が此の部会長を務めるとの事で、部会長として此の部会の進め方、議論の方向性について、長いお話があった。「仮に GO となっても、今迄通りズルズルと仕事を進めると云う様な、日本的な悪弊を避けたい。」と発言していたが、ISS 計画を通じて目覚ましい経済効果は期待できない中で、苦しい部会審議になるのではないかと想像する。)

池上委員長:ご意見、ご質問等御座いましたら、どうぞ。

井上:あの、一つだけ...此の種の委員会の構成メンバって云うのは、やっぱりどうしても有識者ってな観点になりがちで、まあ、此れは此れで、一つの考え方でしょうがないんだと思うんですけども、矢張りあの、今、宇宙ステーションを使って、あの、色々な事を悩んでおられる様な立場の、まあ、現場に近い立場の方々の声が矢張り、まあ、JAXA の関係の方々¹とか、そう云う様な処の方々の声、結局、資料を用意されると云う様な処で関わって来られるかと思えますけども、

¹ 宇宙実験への参加者や、宇宙ステーション運用を行う JAXA 職員は、利用計画の方針決定や、今迄の結果の評価を行い、文科大臣に意見具申する立場に無いので、委員にはなれない。現状報告や将来構想案を提示し、説明する過程での発言権はあるが、其れに対する評価や議決の権限が無いのである。

上手く其処も、一緒に議論に入る様な形でやれると良いと思いますので...そう思います。

(暫く無言)

青江:近頃、つい最近ですけれども、「国際宇宙ステーションは何の成果も産み出していない。」と断言なさる方がいらっしゃるんですけどもですネエ、多分、其の発言は、謂わば新薬だとか、新材料と云った非常にこう、所謂まあ、そう云った側面での成果と云う点に於きましては、場合によってはそう云う言い方も可能なのか、まあ、出来るのかも知れないって云う風に思うんですけども、あの宇宙ステーションで云うのは、そう云ったものも一つ、其の他にも色々な多面的な側面を持って居る訳ですヨネエ。此処にある様に**今日的意義**に書いてある様な、非常に「**多面的観点から²の**」と云うのは、そう云う事なんだと思うんですけども。ですから是非、その一、色々な角度からの、そのまあ、今日的と云うのは、やっぱりチャンと整理を、此の際して置く、そして其れを世の中の人に問い掛けて、「どうなんだろうか。」と、云う問い掛けをして行くべきかなァと。是非、多面的に...まあ、見て頂く様にしたいですネエ。

池上委員長:森尾さん、何かありますか？

森尾:いや、特にありませんが、まあ、エエト、まあ、運用継続するかどうかを判断するに当たっての留意点を、此の部会で議

² 2.(1)に「ISS 計画への参加の今日的意義」には、「科学技術・イノベーション、将来宇宙探査、国際協力、外交、安全保障、教育、運用コスト等の多面的観点から調査審議」と書いてある。

論しましょうって云う事ですヨネ。だから此処はその、

青江:決定はしない。

森尾:決定じゃなくて、

池上委員長:決定はしない。

森尾:斯う云う事に利用して、決定当たっては考えて下さいって云う事ですから、まあ、青江さんが仰った様に、多面的ってところが非常に重要だと思いますネ。

池上委員長:ですから、或る意味じゃあ、気楽ってのは失礼ですけどネ、もう、あの、...勿論此処の委員会って、**基本的には技術について議論する**³って事になるんだけど、其れをこう、広げた様な形ですネ、議論して行きたいナァと私自身思っっては居るんです。で、勿論決定の方は戦略本部なり、或いは最終的にはあのー、当然あの、総理大臣が戦略本部のトップですからネ、其処で政策として政策としては決定して頂くと。それから寧ろ何処にリスクがあるとかですネ、其れについてやっぱり色々あの、出してく必要があるんじゃないかと思っってます。...と、他に...

池上委員長:一寸私が、ですから、今回あの、部会長って云う事になるんですが、一寸私のあの、今の思いをあの、お話したいと云う様に思うんですが、昨日、先程ご報告がありました様に、日本人で最後のシャトル搭乗者になる山崎さんを載せた STS 131 が無事にケネディ・スペースセンタに帰

³ 其の様な限定の仕方はおかしい。「2. 審議事項」の「(1)ISS 計画への参加の今日的意義」には、「国際協力、外交、安全保障」と云う、技術的ではない項目が明確に示されている。

還致しました。で、エー、**マスコミ等の報道にも因ると思うんですが、国民のISSに対する関心は非常に高まって居り**⁴まして、で、また同時に今、青江さんの方からもご指摘が御座いました様に、法人仕分け作業が並行して行われるって云う中で、無駄遣いか否かの視点からも、その、ISS 或いは宇宙開発の進め方への関心が非常に高まって来ると云う風に思います。まあ、そう云う中で、此の特別部会がまあ、設置された訳で御座います。で、今回のですネ、**川端大臣**⁵の諮問はですネ、オバマの新しい宇宙開発方針に盛り込まれました、ISS を 2020 年まで継続すると云う事、それから、NASA はナショナル・ラボとしても活用しなさいと云う指示があって、で、其れを受けて NASA の方はISSの延長ですネ、

⁴ 「マスコミが盛んに取り上げている。」のではあるが、其れは「国民の関心が高まっている。」証拠にはならない。

⁵ かわばた たつお 川端 達夫

生年月日 昭和20年1月24日

出身地 滋賀県近江八幡市

衆議院議員 滋賀1区、当選8回

経 歴

昭和38年 3月 滋賀県立彦根東高等学校卒業

昭和43年 3月 京都大学工学部卒業

昭和45年 3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

昭和45年 4月 東レ株式会社に入社、研究開発業務に従事

(以下、最終ページに記載)

2020 年迄の延長を行いたいと云う話が、...を、提案を、これあの、前月開かれた機関長会議で提案を致しまして、で、機関長会議では運用の継続の方針を、その、確認をしたと。ですからこれは、あの、NASA を支援するって話ではなくて、5 極の機関長会議で以てですネ、2020 年迄運用を継続するって方針についてまあ、確認をした⁶と云う事になってる訳です。で、あの、日本はですネ、JAXA の執行に責任がある文科大臣としてですネ、当然其れについてどうするんだと云う事を示せと云う事で、で、宇宙開発委員会にまあ、指示を出したと云う風に私は理解して居ります。で、一寸此れ、個人的な事を申しますと、私あの、1995 年頃にですネ、当時の宇宙開発委員会の実質の委員長であった、山口、当時 NTT の会長だったんですが、彼から呼ばれて、で、あの一、宇宙ステーションの利用についてですネ、大学の先生だけで議論しては此れもうどうしょうもない、で、お前加わって、産業界の意見を、ま、取り組めと指示を、私、当時 NTT に居ましたんですネ、言われまして、で、95 年からですネ、私、あの、宇宙環境利用部会のメンバとしてですネ、色々産業界巻き込む様な事についても、あの、お手伝いして来たんですが、ま、中々難しいってのが当時、そう云うシュチュウ(?)でした。で、又、此れもたまたまだったんで

⁶ 機関長会議では、「ISS の運用延長案を機関長が認め、夫々の国に持ち帰って政府に申請し、承認を得る為の努力をする。」と云う合意が出来たのだと思う。「NASA を支援」とか、「確認であって合意ではない」と云った話ではなからう。

すが、2001 年にですネ、筑波で開催されました ISS 計画の評価委員会ってのが御座いました。で、これはあの、一週間、約一週間掛けて色々議論したんですが、其の委員長は NASA のヤングさんでして、で、NASA の方から二人の宇宙飛行士も加わって、で、まあ、ISS...日本の其れ迄の ISS 計画がどうだったて云う様な評価を、色々やった経験が御座います。で、当時は NASDA だったんですが、NASDA の説明はですネ、あの、13 年間に確か 2200 億かな、使うと云う約束になっておりまして、其れをどうやって節約するかって云う様な資料ばかりでありましてですネ、で、本来、何故此れをやるのってな議論があんまりなかったんですが、何か今の JAXA と良く似てるなって感じがしないでもないんだけど、で、其れに対して、当然 NASA の皆さんはですネ、その、技術的な視点からどうか等々、まあ、私に言わせますと非常にオープンな、あの一、まともな議論を色々やる様なきっかけを彼等は示してくれまして、非常に驚いた印象が今でも残って居ります。で、一つ挙げますとですネ、あの、当時当然 HTV の議論があった訳なんですけれど、その HTV のリスクについて議論しよう。で、そう云う発想は此方無かった⁷んですがネ、で、ですから其れに対して上手く答えらんなかったんですが、NASA の側は、今思うと当

⁷ 変な話だと感じる。何かを良くしたいと新たなものを取り入れると、却って拙い事になる可能性もある。其れを事前に評価しようとするのがリスク管理だろう。今は当然だと思っていらっしゃる様だが.....。

然なんですけれど、其の HTV がその、ISS に接近して、上手くドッキングする時に、チャンと行くかどうかって云うのが実は最大のリスクなんだって云う話が御座いました。で、あの、当時、ですから我々非常に驚いたんですが、現時点でどうなってるかって言いますと、ご案内の通り日本が開発しましたその、接近装置は非常に優れていると云う事で、アメリカの民間企業が、ISS 輸送用の装置として使うと云う事で、その、売買契約に近い様な契約が進められてる⁸と云う風に聞いて居ります。ですから、此の 10 年間で、日本の技術と云うのは非常に上がって来たんじゃないかと。これは勿論 NASA の方からの色々なアドバイスがあったと云う事では御座いますけれど、ですから 10 年前を思えば、その、非常にあの、大きな展開が行われたなって云う事で、まあ、或る意味じゃ感無量の様な感じが致します。

で、あの、此の委員会をどう進めるかって云う事について、一寸私の考え方を申し上げたいと思うんですが、あの、非

⁸ リスク管理は「拙い事になる可能性を見付ける」事から始まるが、其れの起こる可能性の高低は評価の手順に何の変更も生じさせないと思う。其れが起こっても被害を食い止めるとか、故障が起きても次々に代替手段を働かせて事故を回避するとか、様々な対応を考えて、リスク管理が一回りするのだろう。HTV に使われた接近装置が非常に優れていても、其れを外国の企業が会に来て、HTV が ISS に衝突すると云うバザードは、相変わらず存在している。HTV は ISS に接近し、其のドッキングポートに係留されなければミッションを達成出来ないから、衝突のリスクは必ずある。

常に長い20年来のプロジェクトでありましてですネ、私を含めまして、各人の思い込み⁹が相当ある、マインド・セット(?)が相当ある、で、或る意味ではこう、非常に評論家的な、私も実はその一人だったと云う風に思うんですが、非常に多い¹⁰と。で、其れをその、払拭すると云う意味ですネ、あの、私お願いしてるのは、主語を明確にした資料に基づいた、その、ファクトの確認、つまりこれはエビデンス・ベースって云う風に呼んで良いかも知れませんが、そのファクトを先ず出して貰って、で、其れについて色々議論致しまして、で、各委員が今迄気付かなかった事、ニュー・ファインディングスと云うのを挙げて行って、で、何を議論するかって事を決めて、で、色々議論して行きたい¹¹と云う風に考えて居ります。で、最終的には、あの、文科大臣に対してですネ、リコメンデーションですか、或いはまあ、推薦する様な方向付けを違憲として出して行く事になるんじゃないかと云う風に思います。で、此れ、先程来議論御座いました様に、政策決定は、此れは我々の仕事ではないと

⁹ 「思い入れ」の心算だろう。ところが、マインド・セットが辞書で見付からない。近そうなのは「set one's mind on ...」(...を心に決める)である。

¹⁰ 「思い込み」であっても、「思い入れ」であっても、其れが「評論家的発言」に繋がる論理が見付からない。委員会に於いて評論家的発言を行う人が多いと云うのは確かに有るだろう。

¹¹ 此の説明で特別部会の特別委員の方々が議事の運営概念を理解出来るのだろうか。

云う事で、或る意味ではその、戦略本部よりは自由な、幅広い議論が出来るんじゃないか¹²と云う風に考えておりましたですネエ、自由な発想で、あの意見を、あのー、交わしたいと云う風に思っています。で、あの、仮にですネエ、その、GO になったとしても、あの、何となくズルズル行くと云う話ではなくてですネエ、あの、矢張りキチツとした議論をした後、斯うするんだと云う、その、内容についても相当踏み込んだ様な、あの、議論を行って、間々日本流の、何となく GO が掛ると今迄通りズルズルいって云う様な事は避けたいと云う風に思っています。で、色んな方のあの、「無駄遣いではないか。」と云う疑問を投掛けてる方もですネ、もう一寸キチツと議論しろと云うのが基本になっておまして、で、是非其れに応える事が出来ればと云う風に考え

¹² 政策決定では自由な議論が出来ず、政策決定を貸さなければ幅広い議論が出来ると云う論理は無いと思う。又、JAXA 及びその他の機関長は「夫々の国の政府に承認を貰うべく努力する。」事を合意して帰って来た。其の JAXA を管理する組織の長である文科大臣は、承認すれば資金を確保しなければならず、承認しなければ異質のリスクへの対応をしなければならない。そこで総理大臣の決断に委ねると云う方法もあるが、丸投げは出来ない。そこで、総理大臣に上申する準備を宇宙開発委員会に命じたのである。政策決定そのものは宇宙開発委員会で行うのではないが、政治的判断に必要な情報を集め、分析し、比較評価をして、準備を行うのである。大いに政策議論をしなければならないだろう。

て居ります。で、あの、メンバについてはお手元にお示しして御座いますが、此れ、現時点で御座いまして、で、夫々の、あの、専門の立場からですネエ、意見を言って頂くと云う事を期待して居ります。実はあの、産業界の方が此処に未だ加わって居りませんで、で、産業界の立場の委員もお願いしたいと云う風に思っています。つまり、産業界にとっては、例えば HTV ってのはどう云う意味付けがあるのかと云う様な事についてですネ、産業界の立場からの発言は、我々聞いて行きたいと思っております。で、エー、あの、其れ以外にですネエ、例えばあの、此れは上手く行かなかったんですが、一寸此れうんと飛ぶんですが、その、哲学的な視野からの発言が無いかって云ったんですが、どうも日本にはその、哲学的な視野で斯う云う事を論ずる人が中々居ないって云う事になって、場合によってはヒアリングでカバーする事も考えて居ります。で、私自身としてはですネ、3 カ月位を予定にして居りますが、あの、国の政策のスケジュール、例えば概算要求等々ある訳で御座いまして、其れについてはタイムリにタスクフォースを作るなり何なりしてですネエ、我々としての意見を出してく様な事もやって来たいと云う風に思っています。で、あの、会議はですネ、公開を原則としたいと云う風に思っています。ただあの、実は皆さんお忙しいって云う事もあるんですが、非公開の準備委員会も予定して居ります。で、此れは若干アメリカの、ヒューマン・スペース・フライトに関するオーガスティン委員会を見習ってる処も御座いまして、つまりあの、最終的には

ですネエ、あの、納税者って云うよりは寧ろ国民の支援を得ると云う事が非常に重要¹³で御座いまして、そう云う事を考えて、あの、此の委員会を進めて行きたいと云う風に考えて居ります。……と云う事であの、忙しくなりますが、宜しゅう御座いますか、斯う云う事で。…それではあの、斯う云う事で進めさせて頂きたいと思ひます。どうも有難う。それでは次の議題に…(以下省略)

川端 達夫

政 歴

昭和61年 7月 衆議院議員初当選
 平成 8年 11月 衆議院災害対策特別委員長
 平成11年 10月 民主党国会対策委員長
 平成12年 9月 民主党組織委員長
 平成13年 1月 衆議院安全保障委員会委員長
 平成16年 10月 民主党幹事長
 平成17年 9月 民主党常任幹事会議長
 平成17年 10月 裁判官弾劾裁判所裁判員
 平成18年 9月 民主党副代表
 平成21年 1月 衆議院決算行政監視委員会委員長
 平成21年 9月 文部科学大臣

¹³ 重要でないとは言わないが、其れをどうやって測るのだろうか。まあ、どんな言葉を使ったにしろ、国会議員の賛成多数を得て、予算確保を約束して貰えば、国民の支持を得た事になるのだと思う。

平成22年 1月 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

プロフィール

滋賀県で生まれ、子供の頃から大好きだった自然科学が、人々の幸せや繁栄に役立つとの思いから、京都大学工学部に進み、同大学院の工学研究課程、そして研究開発に携ったサラリーマン時代、一貫して研究や技術開発に全力で打ち込む生活を送る。労働組合活動がきっかけで昭和61年に衆議院議員に初当選した後も、良い政治が自然科学の研究成果と同じように、人々の幸せや繁栄に役立つとの思いで、衆議院や旧民社党、新進党、新党友愛、そして民主党において重責を担ってきた。趣味の読書は、手当たり次第に読む派。最新デジタルツールなど新しいもの好き。

信 条

初心生涯

趣 味

壊れた物を直すこと、読書、スポーツ観戦

家 族

妻、息子三人(社会人として独立)

(首相官邸ホームページより:2010年4月25日)